

教 育 長 様

代表者 校 園 名:大阪市立本田小学校
校 園 長 名:銭本 三千宏 公印
電 話: 06-6581-1531 FAX: 06-6581-3194
申請者 校 園 名:大阪市立本田小学校
職 名・名 前 校 長:銭本 三千宏
電 話:06-6581-1531 FAX:06-6581-3194
代表者校 園 事 務 職 員 名:太谷 由香

平成 28 年度「がんばる先生支援」個人・グループ研究 申請書

◇ 本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1. 研究コース：() 内は、いずれかを○で囲んでください。	
個人研究コース ・ クループ研究 A コース ・ グループ研究 B コース	
継続研究：いずれかを○で囲んでください。	継続研究 [2 年 目] ・ 3 年 目 ・ 4 年 目
2. 研究テーマ	
小学校で豊かに学び続けるための幼小の効果的な接続に関する研究 -----言語活動・表現活動を中心に-----	
◆ 研究内容のキーワード:研究の内容をキーワードで書いてください。(【例】学力向上、体力向上等) 言語活動、表現活動、能力創造において生産性が高いのが幼児期、「ビック 5」、学力向上、道徳面や社会性の成長、子どもの成長の見通し・子育てのインセンティブをステークホルダーに、西区の全ての幼稚園・小学校	
3. 研究目的：箇条書きで端的に書いてください。	
<ul style="list-style-type: none">○ 西区全体で子どもたちが豊かに学び続けるための幼小の効果的な接続を継続研究する。○ 保育公開・授業公開・研究発表会を通して、幼稚園・小学校の保護者に子どもの成長の喜びやこれからの成長の見通しを持つことができるよう研究成果を公開し、子育てへのインセンティブを高める。○ J. Heckman (2000 年ノーベル経済学受賞)の研究や「就学前教育カリキュラム」、学習指導要領を基に、幼小連携の効果的な接続について研究する。○ 西区の全幼稚園・小学校の教諭がコラボレーションして表現領域(特に音楽)や言語領域の指導について保育研究・授業研究する。○ 「舞台が人を育てる」という言葉がある。西区の全幼稚園・小学校が一堂に会し、教職員のみならず保護者や地域など多くのステークホルダーに子どもたちの成長を 2400 人収容の大舞台で公開し、アンケート調査により効果検証する。	
4. 研究内容：継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。	
昨年度の研究の成果 <ul style="list-style-type: none">○ 子どもの「生きる力」の向上について(本田小学校・鞆幼稚園による研究成果) 言語領域では 2 回、表現領域で 2 回の交流授業・保育、そして全市対象の公開授業・保育を通して、幼稚園の幼児については、小学校の先生や児童と触れ合うことにより、小学校の親しみ、安心感、憧れの気持ち、就学への期待感を持ち、すすんで人と関わろうとする力、学びへの意欲を持つことができた。 大勢の参観者の前で、発表会を通じて、努力したことについて多くの人々に認めてもらうことができるという体験により、園児・児童の社会的承認の欲求を満たすのみならず、次の学びへのインセンティブを向上させ、学習の期待を膨らませることができた。 幼稚園と小学校の教諭が合同で保育や授業を行うことで指導の一貫性が生まれ、幼稚園でも小学校でも「友だちとなかよくすること(協調性)」「こつこつがんばること(勤勉性)」「わがままをいわないこと(外向性)」「くよくよしないこと(精神的安定性)」「やったことのないことでも挑戦すること(経験の開放性)」が大切なのだということを認識することができ、幼小の一貫した人格形成の重要性を改めて感じる事ができた。 小学校の児童については園児と交流することにより、自らの成長の振り返りと共に成長した仲間や育ててくれた保護者に感謝する機会になった。○ 保護者の子育てへのインセンティブ向上について 本研究の様子を懇談会で伝えたり、日常の保育・授業を参観してもらったりすることにより、「向上心をもってコツコツ取り組む勤勉性」「積極的に友だちと関わる外向性」「周りの人とのチームワークを大切にすることの協調性」「好奇心を持って新しいことに取り組むという経験の開放性」「感情をコントロールし穏やかな気持ちになる精神の安定性」という「ビック 5」が家庭教育でも大切であることを保護者へ実践的に啓発できた。○ 教職員の指導力向上について 幼稚園と小学校の教員が実践を交流することで、園児と児童の発達の特性を経験することができ、より実践的な幼小連携ができた。また、国語科・音楽科という教科に特化して交流することで専門性の高い交流ができた。 幼児期から児童期までの言語力、表現力について授業実践を通して交流することにより、特に教育資源へのアクセスが弱い家庭の子どもへの支援の仕方を共通理解することができ、早期からの支援の方法と幼小一貫した支援の方策を研究し、共通理解できる。それにより、いわゆる「しんどい子」を大切にする温かい教育風土を幼小で形成できつつある。	
本年度の取り組み 昨年度の公開交流保育・授業、オリックス劇場での発表会に西区内の多くの教職員の参加があった。昨年度の申請書にも記したが、本年度は昨年度の実践を西区内全体に広げることが目的とする。 <ul style="list-style-type: none">○ 教育資源へのアクセスの格差などが幼児・児童の環境の中で拡大していることをふまえ、昨年に引き続き、西区の全幼稚園・小学校で就学前幼児教育カリキュラムに基づき幼稚園教育と小学校教育の連携をはかる。そのため、言語活動(主に国語科)・表現活動(主に音楽科)の領域について幼稚園教育要領・小学校学習指導要領・「就学前教育カリキュラム」の文献研究を行い、指導上の要点を整理する。○ 経済産業研究所(RIETI)で講演されたノーベル賞経済学者ジェームズ・ヘックマン教授「能力の創造」を幼稚園、小学校で共有し、子どもたちの学力向上をめざして「小学校就学後の教育の効率性を決めるのは就学前の教育にある。恵まれない家庭に育ってきた子どもたちの経済状態や生活の質を高めるには、幼少期の教育が大切であること」を確認する。この論文のアブストラクト(要旨)である「すべての能力創造において生産性が高いのが幼児期であること。その能力は相乗的に作用し、将来の能力を高めること。」について、幼稚園・小学校のグループ研究者の共通理解をはかる。○ ジェームズ・ヘックマン教授が「能力の創造」で提唱する社会で成功する性格特性「ビック 5」の育成について言語活動(主に国語科)・表現活動(主に音楽科)の領域で保育実践や授業実践を行い、「小学校で豊かに学び続けるための幼小の効果的な接続」について実践的検証を行	

<p>う。この実践により子どもたちの学力向上という認知面だけでなく、道徳面や社会性など非認知面についても成長についても研究する。授業実践については教育関係者や保護者、地域に公開する。「ピック 5」とは「精神的安定性」「勤勉性」「経験の開放性」「協調性」「社向性」という社会で成功するための 5 つの特性である。</p> <p>○ 昨年度の研究成果(昨年度提出資料を参照)をもとに教職員のみならず、保護者や地域など多くのステークホルダーに提案するため、幼稚園児と小学校児童が一同に会した発表会をオリックス劇場(収容人員 2400 人)で行う。子どもたちの確かな成長を確かめる場とするとともに、幼児期の子どもの保護者には子どもの成長の見通しを持つことができる場にする。この発表会により保護者の子育てのインセンティブの一層の向上を図る。</p> <p>○ 昨年度、本田小学校と韋幼稚園が行った研究をもとに、それぞれの学校園の実態に即して幼小連携の取組を行い、西区の「小学校で豊かに学び続けるための幼小の効果的な接続」を研究する。</p>			
<p>5. 研究計画：日程など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p>			
<p>* 研究内容に応じて、2 年以上の計画を記載することも可（但し、支援は本年度文のみ）</p> <p>5月 幼小文献研究会を西区園長会、校長会が中心となっており、各校園に伝達研修をする。</p> <p>6月 第1回交流保育・授業案検討会(表現)</p> <p>6月 本田小学校公開授業(国語科)</p> <p>7月 第1回公開交流保育・授業研究会(表現) 於:大阪市立九条幼稚園、大阪市立韋幼稚園</p> <p>7月 堀江小学校全市公開授業(国語科他)</p> <p>8月 第2回交流保育・授業案検討会(言語)</p> <p>9月 第3回交流保育・授業案検討会(表現)</p> <p>9月 本田小学校全市公開授業(国語科他)</p> <p>10月 第2回公開交流保育・授業研究会(言語) 於:大阪市立九条幼稚園、大阪市立韋幼稚園</p> <p>10月 第3回公開交流保育・授業研究会(表現) 於:大阪市立九条幼稚園、大阪市立韋幼稚園</p> <p>10月 合同音楽会参加(韋・九条・日吉・西船場・堀江幼稚園)</p> <p>11月 本田小学校公開授業(音楽科)</p> <p>11月 大阪市音楽交流会参加(本田小学校)</p> <p>12月 西区音楽交流会参加(九条北・日吉・九条東・明治・九条南・堀江・西船場・本田小学校)</p> <p>1月 幼小合同発表会打ち合わせ</p> <p>1月 本田小学校全市公開授業(国語科・音楽科他)</p> <p>2月 堀江小学校全市公開授業(国語科他)</p> <p>2月8日 西区幼小合同発表会(オリックス劇場)全市公開</p>			
<p>6. 見込まれる成果：学力向上をはじめとした大阪市教育振興基本計画に示されている、子どもの様々な力の向上、教員の指導力の向上をふまえて端的に記載してください。</p>			
<p>○ 子どもの「生きる力」の向上について</p> <p>ア. 幼稚園の幼児については、小学校の先生や児童と触れ合うことにより、小学校の親しみ、安心感、憧れの気持ち、就学への期待感を持ち、すすんで人と関わろうとする力、学びへの意欲を持つことができる。</p> <p>イ. 発表会を通じて、努力したことについて多くの人々に認めてもらうことができるという体験は、園児・児童の社会的承認の欲求を満たすのみならず、次の学びへのインセンティブを向上させ、学習の期待を膨らませる。</p> <p>ウ. 幼稚園と小学校の教諭が合同で保育や授業を行うことで指導の一貫性が生まれ、幼稚園でも小学校でも「友だちとなかよくすること(協調性)」「こつこつがんばること(勤勉性)」「わがままをいわないこと(外向性)」「くよくよしないこと(精神的安定性)」「やったことのないことでも挑戦すること(経験の開放性)」が大切なのだということを認識させることができ、自信を持って小学校で学ぶことができる。</p> <p>エ. 小学校の児童については園児と交流することにより、自らの成長の振り返りと共に成長した仲間や育ててくれた保護者に感謝する機会が生まれる。</p> <p>オ. 西区の幼児・児童が一同に会し、お互いの音楽表現を交流することにより、一年間の努力を認め合える機会にすることができる。</p> <p>○ 保護者の子育てへのインセンティブ向上について</p> <p>ア. 公開授業・保育、発表会を通じて、保護者が子どもの成長の見通しを持つことができるようになり、子育てへの不安を「夢をもって子どもの成長を期待し、子どもを育てることのすばらしさ」にかえていくことができる。</p> <p>イ. 公開保育・授業を通して「向上心をもってコツコツ取り組む勤勉性」「積極的に友だちと関わる外向性」「周りの人とのチームワークを大切にする協調性」「好奇心を持って新しいことに取り組むという経験の開放性」「感情をコントロールし穏やかな気持ちになる精神の安定性」という「ピック 5」が家庭教育でも大切であることを実践的に啓発できる</p> <p>○ 教員の指導力向上について</p> <p>ア. 幼稚園と小学校の教員が実践を交流することで、園児と児童の発達の特徴を経験することができ、より実践的な幼小連携ができる。また、国語科・音楽科という教科に特化して交流することで専門性の高い交流ができる。</p> <p>イ. 幼児期から児童期までの言語力、表現力について授業実践を通して交流することにより、特に教育資源へのアクセスが弱い家庭の子どもへの支援の仕方を共通理解することができ、早期からの支援の方法と幼少一貫した支援の方策を研究し、共通理解できる。それによりいわゆる「しんどい子」を大切にする温かい教育風土を幼小で形成できる。</p>			
<p>7. 成果の検証方法:客観的な指標により、必ず数値で示すことができる方法で記述する。</p>			
<p>○ 本研究の取り組みを公開保育・授業、オリックス劇場での発表会の参観者に配付し、就学前カリキュラムと小学校のカリキュラムの連続性の重要性を啓発し、その反応をアンケート調査する。</p> <p>○ また、幼稚園・小学校の保護者には「小学校で豊かに学び続けるための幼小の効果的な接続に関する研究」についての満足度をアンケート調査する。</p> <p>○ 公開保育・公開授業については参観者に保育・授業アンケートを行う。アンケート形式については ICT モデル授業の「教育センターの調査用紙」を使用する。</p>			
<p>8. 研究発表の日程・場所（予定）</p> <p>*今日の課題コースは必ず記載してください。</p> <p>日程 平成 29 年 2 月 8 日(水) 西区幼稚園・小学校合同発表会 場所：オリックス劇場</p>			
<p>9 代表校園長のコメント</p>			
<p>教育格差の是正のためには、幼児期の保護者に子どもの成長の見通しや展望、期待を持ってもらえるようにすることが必須である。昨年度の実践を通して、多くの保護者、地域住民に、子どもが育つことの素晴らしさを実感してもらった。府会議員の先生も涙を流しながら子どもたちの発表を見、非認知能力を育てることの大切を理解してくださった。昨年度の研究実践の成果を西区全体に広げ、より多くのステークホルダーが「子どもたちが豊かに学び続けるための幼小の効果的な接続」について理解し、各校園の教育実践の応援隊になることを期待する。区長も本研究に強い関心を持っており、研究推進の推薦を頂いている。</p>			